モニタリング事例（西表島オオヒキガエル）

１．既に導入されたオオヒキガエルの監視・駆除

①監視ルートの確定

地図と航空写真を元に踏査し、潜在的な繁殖場所として、池、水田等計 169 箇所を確認。これを基に、繁殖しそうな止水域と水田のマップを作成

②監視体制

調査員：西表島住民から募集（有償）

調査方法：止水マップを基にルートを設定し、徒歩により、オオヒキガエルの鳴き声、姿を確認

調査時間：週に１～２回、日没から夜間の約１時間

③実施期間

平成 14 年(2002 年) ２月～

なお、2003 年４月までの月別調査回数は 1138 回であり、４個体（雄２、雌２）を捕獲

２．侵入経路の特定

①想定

西表島で確認されたオオヒキガエルは成体サイズであり、卵塊や幼生が確認されていないことから、島内で繁殖しているのではなく、別の生息地から持ち込まれていると思われる。

1978 年頃、ムカデ駆除の目的で意図的に持ちこまれて定着し、高密度で生息している石垣島から、建設資材にまぎれて侵入している可能性が高い。

②実態調査

行政機関等へのアンケート及び聞き取りにより、以下の調査を行い、建設資材の持ち込み実態を把握

・西表島の建設事業（沖縄県の公共事業）の把握
・各事業で使用される主な資材及び使用量の把握
・資材の流通経路の把握

③調査結果

・西表島における工事件数の増加とオオヒキガエルの侵入数の増加に関係が認められることから、石垣島から西表島に運び込まれる建設資材に付着して非意図的に導入されていると考えられる。
・オオヒキガエルが紛れ込む可能性の高い資材として、U 字溝等のコンクリート二次製品が考えられる

○オオヒキガエルの生態

オオヒキガエル（*Bufo marinus*）は、ヒキガエル科ヒキガエル属に属する。

成体の体長は、雄で 89-124(平均 110)mm、雌で 88-155(平均 112)mm と雌雄による大きさの差がほとんどない。

原産国は中南米産で、主にサトウキビの害虫駆除目的で太平洋諸島の各地に移入され、国内では小笠原諸島、北・南大東島、石垣島に定着している。

繁殖は一時的な水溜りや池などの止水で行われる。卵は 20m にもおよぶ長いひも状の卵塊として産み付けられ、蔵卵数は 8000～15,000 個以上とされる。孵化した幼生は約１月で変態上陸し、半年ほどで性成熟に達する。

食性は、陸貝、ムカデ、ヤスデ、クモ、ゴキブリなど。

耳の後に大きな耳腺が発達しており、ブフォトキシンという強力な毒成分を含む液を出して外敵から身を守る。

写真：オオヒキガエルの雄